

平成24年度 第2回授業改善推進プラン

○左側3項目は、「第1回授業改善推進プラン」である。

○太線枠内は、生徒による授業評価（二学期末実施）などを踏まえて策定した「第2回授業改善推進プラン」である。

荒川区立第四中学校（教科 国語 ）

本教科の授業改善の視点

	本校生徒の実態	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	二学期の成果と課題	年度末に向けての改善策
1年	授業への取り組みは良いようだが、授業中の発言・質問・予習復習等の自主学習でできていないと考える生徒が見られた。	指示や説明がうまく通り、活動はよく進められたと思う。質問しやすい雰囲気と、授業・学習に積極的に取り組む姿勢を作らなくてはならない。	質問をしやすい雰囲気を作り、全員が発言できる授業にする。そのために様々な角度からの質問を用意したり、それぞれの考えを練るような時間を作ったりする。	授業の雰囲気良くなったと感じる。指示への反応が良くなり主体的に学習する場面も多く見られた。学習に対する姿勢の個人差を無くし、集団としてより良い学習ができるようにしていきたい。	班での活動や、静かに集中して作業や思考をする時間を多くとりたい。発言が増えてきたため、しっかりと授業規律を身につけさせたい。
2年	漢字学習「視写スキル」などの教材に、集中して真面目に取り組むことができる。活発に発言する姿も多く見られる。自主学習ノートを活用して、家庭学習の習慣が定着してきた生徒も少なくない。一方で、低学力等で個別支援を必要とする生徒も少なくない。	わかりやすくノートを書くことに意識が向いていて、説明がしっかりと聞けていないのではないかと思われる。「説明を聞きながら書く」のは難しいので、書き終わった後に、もう一度簡単な説明を加えて、質問の時間を適宜設けながら進めていきたい。	できるだけ平易な言葉で、わかりやすい説明を、今後も心がけていく。適宜解説を加えながら、難解な言葉になじませていく。電子黒板や道具を活用し、視覚的な刺激を与えながら生徒の興味感心を高めていきたい。本時のめあてを示し、学習課題を明確にして取り組ませたい。	登場人物の行動や心情を読み取り、それを記述してまとめる練習を繰り返した。まとめるためのポイントを丁寧に説明し、反復練習をした結果、適切なまとめができるようになってきた。漢字学習に力を入れてきた結果、漢字検定にチャレンジする意欲が高まってきた。	百人一首の暗誦、カルタ取りなど、古典に親しむ取り組みを行い、楽しみながら学ばせていく。話し方・聞き方の演習を行い、入試面接やプレゼンテーションに対応できる基礎を養う。
3年	わかりやすかったと答える生徒も多くいたが、発言できた・自主学習ができたと答える生徒は少なかった。各自が積極的に取り組む姿勢を作るための声かけ・指導をしなければいけない。	説明がうまく頭に入り。理解はよかったようだ。相互で教え合ったり気づきあったりするような場面を多く作り、それぞれに考える習慣をつけさせたい。	学習の場面で様々な意見や考えを出して、発表するような取り組みを多くし、積極的に発言させるようにする。	班活動等で自分の意見と他者の意見を比較したり選んだりとそれぞれを尊重する取り組みが上手くなった。	いろいろな考えをしたりアイデアを出したり、思考する楽しさを感じる授業をした。読書習慣向上の働きかけもしていく。自分の意見や感想を書くのが苦手な生徒が多いため、作文指導も継続していく。

平成24年度 第2回授業改善推進プラン

荒川区立第四中学校（教科 数学）

本教科の授業改善の視点

	本校生徒の実態	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	二学期の成果と課題	年度末に向けての改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 授業が始まっているのに、教科書やノートなど授業の準備ができていない生徒がいる。 静かに聞いているが理解できない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前の授業が終わったら次の授業の準備をすぐにすることになっているが、習慣を徹底できていない。 ノートはとっているが、理解できるまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が授業の準備ができるまで待つなど授業に取り組む心構えの大切さを語っていく。 TTを活用して、マンツーマンでつかない生徒につけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業が始まる時には、何も言わなくても、教科書やノートなど授業の準備ができるようになったが、意欲の向上が課題である。 TTを活用して、マンツーマンでつけば、できるようになった生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の将来や、進路についてよく考えさせ、意欲を持って学習に取り組めるようにする。 1クラスを3コースの習熟度別に分け、より個に応じた指導ができるようにする。特にゆっくりコースは支援員に2人ついてもらい、マンツーマンで指導できるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算の力が身につけていない生徒が多数いる。 静かに聞いているが、理解できない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> TTのときには、個別指導で対応できたが、少人数授業にしたら計算ができなくて困った。 小テストで確認しながら進めているが、常に確認する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数授業を行いながら、さらにも、できない生徒には、個別指導を行う。 新しい内容に入るときは、以前の内容を復習してから入る。 	<ul style="list-style-type: none"> TTや少人数授業をやったとできる生徒が現れた。 基本的な計算ができるようになった生徒もいるが、未だにできない生徒がいる。関心・意欲に課題がある生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> TTが良い場合や少人数が良い場合があるので、授業の内容や生徒の状況に応じて、TTと少人数の授業を使い分ける。 関心・意欲を高めるため、できたときの体験を増やしたり、自分の進路や将来について考えさせる機会を設ける。
3年	<ul style="list-style-type: none"> できる生徒とできない生徒の差が大きい。 積極的に発言できる。 証明問題を書かない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数授業に分けたが、その中でもできる生徒とできない生徒の差が大きい。 証明の書き方がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本が身につけていない生徒とある程度身につけている生徒をきちんと分けて習熟度別少人数授業をする。 証明の書き方から丁寧に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 証明の書き方を丁寧に指導したり、復習ノートなどを通して、人にわかりやすく説明する授業を取り入れたおかげで、証明を書くようになった。 筋道を立ててわかりやすく説明できるようになったのが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 入試に向けて、答案の書き方を指導する。特に証明問題は、誰が読んでもわかるような書き方を細かく指導する。 基礎・基本を確認しつつ、応用問題も解けるように、入試の過去問題を取り上げて、解き方が身につくように指導する。

平成24年度 第2回授業改善推進プラン

荒川区立第四中学校（教科 理科）

本教科の授業改善の視点

	本校生徒の実態	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	二学期の成果と課題	年度末に向けての改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に落ち着きがなく、授業に集中して取り組むことができていない。 意欲や理解度に大きな個人差がある。 意欲がある生徒でも、作業が遅く、不器用な部分が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期は、物理的現象の概念部分をとらえる授業に入るため、よきえない場面がある。 計算では、小数がつく掛け算・割り算につまづきやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 用語や公式を暗記させるのではなく、生徒が理解できるような言葉を使って、かみ砕いて指導する。 電子黒板等で映像を用いることで、視覚から現象を捉えるように導く。 小学校の学習内容を復習させ、小テスト等を頻繁に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に即した言い回しを使うことや、ゆとりと考える時間を与えることで、授業内容の理解につながっている。 理解度に大きな差があるため、小学校での既習内容を確認しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 成果がでた部分を引き続き実践していくと同時に、電子黒板等で映像を用いることで視覚から現象を捉えられるようにすることで、理解の定着をはかる。 細かく復習の時間を設定し、指導していく。また、特別支援員の協力も得ながら学習の定着を図っていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する意欲が高い生徒が多く、質問が多いが、発言数に偏りがみられる。 学習内容を断片的にとらえており、前に学習した内容とは別にとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に参加しているという意識が低く、板書を写すだけになっている。 単元ごとの内容は理解できているが、単元をまわりたい知識が必要な問題は、取り組むことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業の場を増やして、授業に参加させることで一人一人の学習意欲を高め、発言の機会を増やす。 入試問題を取り入れ、知識の活用の仕方を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の取り組みを多くすることで、生徒が参加する場面を増やしたが、積極的に取り組む生徒とあまり積極的でない生徒とがでてきました。 入試問題を取り入れ、生徒の知識の活用の仕方を指導したが、まだ効果的な効果は見られないが、意欲は高まってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の取り組みの際には、班員の中で役割をそれぞれ与え、生徒全員が参加できるように工夫する。 学習意欲の向上につながっている入試問題は今後も活用し、学習内容を総合的にとらえられる力をつけていく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度は良く、ルールを守れている。 学習習慣が身についておらず、1・2年の内容が定着していない。 学習意欲や学力の高い生徒と低い生徒の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 用語や公式を暗記するばかりで概念を理解できていない。 分数や小数の計算が必要な問題が解けていない、解こうとしない生徒が多い。 質問が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書だけでなく、スライドや模型を用いた説明を工夫する。 計算問題は途中計算も丁寧に指導する。 こまめな机間指導を行い、質問しやすい環境にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像資料を用いて説明することで生徒にイメージをもたせられた。また関心を高める事ができた。 計算問題はスモールステップで繰り返し説明することで理解につなげることができた。 学力の低い生徒への個別対応が出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像資料に加え、ニュースや社会問題など日常生活に関連させながら説明し、関心を高める。 入試に向け、1・2年生の学習内容に関連させながら授業を行う。

平成24年度 第2回授業改善推進プラン

荒川区立第四中学校（教科 社会科 ）

本教科の授業改善の視点

	本校生徒の実態	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	二学期の成果と課題	年度末に向けての改善策
1年	<p><地理></p> <ul style="list-style-type: none"> *忘れ物が多い。 *集中力が続かない。 *ていねいに根気よく説明しないと、理解ができない生徒が多い。 *ニュースなどに対する関心も薄い。 *日本語の読み書きがあやしく、特に漢字力がない生徒が多い 	<p><地理></p> <ul style="list-style-type: none"> *次回の持ち物について何回も確認する。 *集中力をつけられる、学習を考える。 *世界の動きに関心を持つような、授業を考えていく。 *文を読んだり、書く機会を増やす。 	<p><地理></p> <ul style="list-style-type: none"> *授業に必要なものを、なるべく少なくし、その中で有効な授業展開を考える。 *集中力をつけるため、根気のいる作業的な課題を取り入れていく。 *時に応じて世界のニュースを取り入れた授業を工夫する。 	<p><地理></p> <ul style="list-style-type: none"> *持ち物についての忘れ物は以前よりは減少した。 *以前より集中して学習に取り組むようになった。 *文を読んだり、書く機会を増やし、以前よりは苦にする生徒が減少した。 	<p><地理></p> <ul style="list-style-type: none"> *授業に必要なものを極力少なくし、忘れ物が少なくなるよう工夫する。 *生徒が興味を持てるような話題を恒に考え、関心を持って授業に取り組めるよう工夫する。 *ワークシートに作業を多く取り入れ、多角的な視点で理解できるよう工夫する。
	<p><歴史></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に相応しい態度で臨んでいるが、集中力がもたない。 ・授業内容は理解し、考察出来ていない。 ・家庭学習の習慣があまり身につけていない。 ・忘れ物が良くないこと、という意識の低い生徒が多い。 	<p><歴史></p> <ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物をしたら授業に支障が出る、という意識を持たせる。 ・復習を毎日10分でも良いので習慣づける指導を日常的に行う。 	<p><歴史></p> <ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物をしたら、基本的に物の貸し借りは認めないよう指導。 ・書く・聞く・話す・見るという動きにメリハリをつけた授業展開を意図的に行う。 ・単元終了ごとに小テストを実施し、復習機会を促すきっかけをつくる。 	<p><歴史></p> <ul style="list-style-type: none"> ・書く・聞く・話す・見るという動きを意図的に授業展開に取り入れることで、授業への集中力が持続し、学習意欲も観察法に基づき向上した。 ・単元終了ごとに小テストを実施することで、復習機会の促進につながった。 ・忘れ物の回数が少なくなった。また忘れ物をしても、どのような対応をすれば良いかを身に付けられるようになった。 	<p><歴史></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料読解、課題追究場面を意図的に増やし、思考力・判断力・表現力の向上に一層努める。 ・必要に応じて電子黒板を活用し、生徒の学習意欲の向上に一層努める。 ・言語活動の観点から、考査時における記述・論述問題の書き方の説明を折を見て行いたい。

2年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に相応しい態度で臨んでいるが、集中力がもたない。 ・授業と授業以外の時間のメリハリが非常にある。 ・発言する生徒としない生徒に大きな差がある。 ・家庭学習の習慣があまり身につけていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手と発言した回数、一時間の自分自身のふりかえりを授業終了ごとに行い、挙手と発言の機会を促したい。 ・復習を毎日10分でも良いので習慣づける指導を日常的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く・聞く・話す・見るという動きにメリハリをつけた授業展開を意図的に行う。 ・単元終了ごとに小テストを実施し、復習の機会を促すきっかけをつくる。 ・ナマ史料や諸史料を授業教材として活用し、生徒に驚きや関心を与え、授業への意欲を引き続き高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く・聞く・話す・見るという動きを意図的に授業展開に取り入れることで、授業への集中力が持続し、学習意欲も観察法に基づき向上した。 ・授業の関連内容に即して意図的に復習に関わる質問を取り入れ、復習する機会を授業内でも設定し、復習する生徒が若干増加した。 ・授業後のふりかえりを行うことで授業における自己を相対化させ、挙手と発言の促進につながった。しかし、発言する生徒としない生徒に大きな差があり、受け身な姿勢が多いという課題は残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物を期限内に提出しない生徒が多かった。折りを見て提出物の未提出の確認を粘り強く行い、諦めずに提出することを一層指導する。 ・資料読解、課題追究場面を意図的に増やし、思考力・判断力・表現力の向上に一層努める。 ・受け身な生徒に対しては出来るだけクローズドクエスチョンを、積極的な生徒に対しては出来るだけオープンクエスチョンを手法として使い、挙手と発言の機会をさらに促したい。
3年	<ul style="list-style-type: none"> *授業にはきちんと取り組めるが、理解をしているかどうかは疑問な生徒が多い。 *世界の動きやニュースに対する関心が薄い生徒が多い。 *いろいろなことに対し好奇心を持つ生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> *どこまで理解しているか細かく確認していく必要がある。 *世界に関心を持たせるような授業改善が必要である。 *いろいろな課題を与える中で、好奇心を導き出す工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> *なるべく多くの生徒に指名し、考えを発表させるなどの授業展開を考えていく。 *世界に関心を持たせるような授業素材を工夫していく。 *現代的な課題を投げかけ、自分としての視点を持たせる中で、好奇心 	<ul style="list-style-type: none"> *今学期は、名簿順に一人ずつ興味のあるニュースを発表させた。はじめは何をやっても良いかわからない生徒も多かったが、一人ずつ指導することにより、ニュースに対する関心も高まった。 *授業アンケートに社会科の授業は身近なことを知ることができて良かったなどの意見が多くあり、生徒が少しずつ授業のねらいを理解するようになっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> *1,2年の既習事項を未だに理解していない生徒が多く、引き続き復習に取り組みたい。 *現代のニュースとからめて、より生徒が関心を持ち授業に取り組めるよう工夫していきたい。

平成24年度 第2回授業改善推進プラン

荒川区立第四中学校（教科 英語科）

本教科の授業改善の視点

	本校生徒の実態	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	二学期の成果と課題	年度末に向けての改善策
1年	授業中、一生懸命話を聞き、プリントに取り組んでいる様子が見える。一方で、予習・復習をしていない生徒の割合は低く、授業中、積極的に発言する様子はあまり見られない。全体的には、よく授業内容を理解しようとしているものの、授業への取り組みには受け身な態度が見うけられる。	授業前の予習や授業後の復習に関する項目では、している生徒の割合は、「少し思う」や「あまり思わない」が多くを占めている。同じような割合の質問は、授業中、積極的に発言しているかどうかの項目である。一方、多くの生徒が授業をよく理解できて、わかりやすくノートを書いていることがわかる。	授業への取り組みに受け身の態度が見られるので、今後、授業の展開に、生徒が積極的に発言できる機会をつくり、生徒同士による会話練習の場面を設けたりして、生徒の主体的・積極的に取り組みを促す授業展開をしていく。また、補助教材を工夫し、生徒の興味や関心も引き出していくようにする。	授業への取り組みに積極的な態度が見られるようになってきた。オーラルインタラクションや教科書の音読練習など、話す活動や読む活動に対して積極的に声を出す場面が増えてきた。ワークシートにも熱心に取り組む様子が見られた。しかし、書く活動が授業内で十分に確保できていない上に、定期考査では、上位層と下位層に大きな開きが見られる。上位層と下位層の格差が縮まるようにすること、書く活動の時間を確保することが、今後の課題としてあげられる。	生徒は積極的に授業に取り組んでいるので、今学期も生徒の関心や意欲を高められるような教材の用意に努める。さらに、読む・書く・話す・聞くの4つの領域をバランスよく身につけられるようにするために、教科書の題材や新出表現事項にあわせて、活動内容を工夫していく。また、定期考査で、上位層と下位層に開きが見られるので、その差が縮まるように、習熟度別の学習で、それぞれの活動バランスを考慮しつつ、授業を展開していく。
2年	成績上位者と下位者の差が大きい。明るく前向きな生徒が多く、授業中積極的に発言し、意欲的に取り組む姿が見られる。一方で、ノートを取る、練習問題を解くなどの場面で個別に助言することが必要な生徒もいる。下位者の中には、予習・復習など、自分からすすんで学習する習慣が身につけていない生徒が多い。	習熟度別少人数指導の「しっかりコース」では、授業中、なるべく個別に学習支援ができるようにするため、NEAとJETのチームティーチングを行い、音読や読解でつまづいている生徒の理解を支援する。「ぐんぐんコース」では、自己表現活動や長文読解などにとりくませ、力を伸ばしていく。	新出文法事項を導入する際には、視覚に訴えるような教具（ピクチャーカード、フラッシュカード等）を工夫する。学習内容の定着を図るため、平易な文でくり返し口頭練習を行うとともに、言えるようになった文を書かせることを重視していく。ノートの作り方や単語練習の仕方など、基本的な学習方法を身につけさせるようにする。	「しっかりコース」では、授業中ノートを取ることやワークシートの練習問題を解くことに積極的にとりくむ生徒が増えてきた。「ぐんぐんコース」では、長文読解やクリスマスカードづくりなどに取り組み、読解力を高めたり、外国文化への興味関心を高める活動に取り組んだ。成績上位者と下位者の差は依然としてあるものの、全員で「My Dream」のスピーチにとりくみ、英語で表現することの楽しさや面白さを感じている生徒が少しずつ増えてきていることは大きな成果である。	3学期は3年進級に向けて、1～2年次の学習内容を定着させることが課題である。そのために、教科書の内容が終わった時点で、文法項目を中心の復習問題に取り組ませる。ノートの取り方や、予習・復習の方法などは、改めて全員に確認させ、3年次のスタートを順調に切れるようにしたい。3学期はNEAが派遣されないのので、「しっかりコース」での個別の学習支援が難しくなる。1～2学期の勤務日数を減らし、3学期まで通年勤務してもらえる方が望ましいと感じる。
3年	明るく前向きで、授業中積極的に発言し、課題にも意欲的に取り組む生徒が多い。単語練習やノートテイキング、練習問題等にはこつこつと取り組むが、長文を読解したり、英語で自己表現したりすることには、「わからない」「できない」という感覚を持っている生徒が多い。学習そのものに自信が持たなくなっている生徒もいる。	習熟度別少人数指導の「しっかりコース」では、授業中、なるべく個別に学習支援ができるようにするため、NEAとJETのチームティーチングを行い、音読や読解でつまづいている生徒の理解を支援する。スモールステップで英語による自己表現を行わせることで、「できない」という壁を取り払っていく。	新出文法事項を導入する際には、視覚に訴えるような教具（ピクチャーカード、フラッシュカード等）を工夫する。文法事項の定着を図るため、平易な文でくり返し口頭練習を行うとともに、言えるようになった文を書かせることを重視していく。読解力、表現力を伸ばすため、適宜読み物教材や、スピーチ等を取り入れる。	1学期、2学期と英語スピーチを行い、英語で表現する力を高めることができた。The Story of Sadako や、Houses and Lives など教科書の読み物教材を読む中で、読み取るポイントをおさえた黙読と、一文一文の意味をとらえる精読に取り組む、英文を読み理解することの楽しさを味わえるように工夫してきた。長文読解に対する苦手意識が少しずつなくなっていることは、大きな成果である。文法項目としては難しい内容が増えていくが、前向きに理解しようと努力する生徒が多い。	受験と卒業に向けて、3年間の総まとめをする時期である。教科書の内容と平行して高校入試問題の演習や、3年間の総まとめの問題演習に取り組んでいく。卒業前に、友人や大切な人へのメッセージを英語で書く表現活動にとりくむ。英語や外国語を学ぶことの意味、異文化理解と国際社会で生きることの意味などについて考える機会を持ちたい。

平成24年度 第2回授業改善推進プラン

荒川区立第四中学校（教科 美術科 ）

本教科の授業改善の視点

	本校生徒の実態	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	二学期の成果と課題	年度末に向けての改善策
1年	<p>多くの生徒はやる気が感じられ、積極的である。</p> <p>一部の生徒は作業時間がかかり、足並みはそろいにくい。忘れ物の多さも目立つ。</p>	<p>全学年に言えることだが、電子黒板や板書、図の提示が効果的である。参考資料を多く提示し、アイデアのきっかけにさせているが、参考資料が多すぎて決めかねてしまい悩んでしまう生徒もいる。</p>	<p>作業の進行が遅くなっている原因は、いくつかのアイデアから選び取ることができない場合が多い。取捨選択をさせるために、作品のイメージを言語化させ、より具現化しやすいものを選びせるような取り組みをする。たとえば作品制作のためのキャッチコピーを発表させ、アイデアを周りの生徒にも伝えることではつきりさせる（ブレンストーミングのように）。</p> <p>どうしてもこれをやりたい、という生徒には、そのこだわりを認め、みんなとは異なるが完成度の高いものを心がけさせる。</p>	<p>アイデアの言語化をして発想の時間を短縮できた。</p> <p>用具の扱い方の練習時間が短かったせいか、上手く使いこなせていない生徒も何人かいたことが課題である。</p> <p>当初の計画からの変更があった。</p>	<p>作品が完成したらすぐに掲示し、多くの方に見てもらえるような展示を行いたい。作品の完成が遅れないように日々の目標設定を確実にする。</p> <p>用具の管理と安全指導には特に気をつけたい。</p> <p>作品数を増やし、展示会への見栄えを考えた計画だったが、無理もみられた。完成度の高い作品を作るため、時間配分の見直しを行う。</p>
2年	<p>明るく素直である。作業の手が遅い生徒は考え込んでしまいがちである。</p>			<p>作品数が多くなり、互いに楽しみながら鑑賞し合えた。しかし予定している時間では完成せず、効率よい進め方が必要である。</p> <p>当初の計画からの変更があった。</p>	
3年	<p>積極的な生徒が多い。美術を嫌っていない様子である。</p>			<p>時間配分が悪かったため、完成度の高い作品ともしっかり時間をかけた作品とに分かれてしまった。しかし満足した生徒も多かった。多くの技法も体験させることができたと思う。</p> <p>当初の計画からの変更があった。</p>	

平成24年度 第2回授業改善推進プラン

荒川区立第四中学校（教科 保健体育）

本教科の授業改善の視点

	本校生徒の実態	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	二学期の成果と課題	年度末に向けての改善策
1年	<p>体育の授業への意欲は高く、取り組みもよい。苦手な生徒も一生懸命やろうという姿勢が見られる。スポーツテストの結果では、大体、全国・都の平均の数値が出ている。</p>	<p>意欲も取り組みも高い分、体を動かす時間を多く取り入れ、基礎体力を上げる時間を確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主運動の時間の確保 時間のめあての明確化 生徒が積極的に発言できる授業づくり 	<p>少しずつだが、体育係を中心に自分たちで主運動前の準備体操、筋トレまで進めることができるようになってきている。また、集団スポーツを通し、互いに励まし合いながら、一人一人が積極的に取り組む姿が見られてきている。今後の課題として、目標達成した時点で満足してしまう生徒や、できないとすぐにあきらめてしまう生徒に対し、意欲を高められるような指導をしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主運動の時間の確保 生徒が授業内容を理解できるよう、説明の仕方の工夫や教材研究に努める。 一つ一つ段階を踏んでいけるような目標を設定し、一人一人が積極的に取り組めるようにする。その中で「できた」という実感を多くもたせられる工夫をしていく。
2年	<p>体を動かすことは好きだが、授業規律を整えることにまだ課題が見られる。スポーツテストの結果では、全国・都の平均を下回っている。</p>	<p>生徒とのコミュニケーションを大事にし、授業規律を整えていく。また、その時間のめあてや指示を明確にし、目的をもって体を動かせる工夫が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 時間のめあての明確化 主運動前の準備体操、筋トレの確実実施 学年全体で楽しく取り組むことのできる授業づくり 	<p>1学期に比べ、授業規律は整ってきたが、まだ自分たちで意識して取り組むことができず、今後も課題の一つである。また、主運動には積極的に取り組んでいるが、人間関係から学年全体で楽しく取り組むことが難しいため、全員で楽しく取り組むことのできる授業づくりが重要な課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主運動前の準備体操、筋トレの確実実施 生徒が授業内容を理解できるよう、説明の仕方の工夫や教材研究に努める。 学年全体で楽しく取り組むことのできる授業づくりのため、教え合いや互いを認め合えるような活動を多く取り入れる。
3年	<p>授業への取り組みはよいが、積極的に取り組もうという面が加わるとよりよいと感じている。スポーツテストの結果では、全国・都の平均を下回っている。</p>	<p>一つ一つ段階を踏んでいけるような目標を設定し、一人一人が積極的に取り組めるようにする。その中で「できた」という実感を多くもたせられる工夫をしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 時間のめあての明確化 生徒が積極的に体を動かすことのできる授業づくり 	<p>目標を設定することにより、より積極的に取り組む姿勢が見られた。また、目標を達成するために、一人一人が工夫して練習する姿も見られた。今後の課題は、できるようになったことを、どのような場面で活かすことができるのかを考え、取り組むことができるよう指導していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が積極的に体を動かすことのできる授業づくり 生徒が授業内容を理解できるよう、説明の仕方の工夫や教材研究に努める。 基礎を身に付けた上で、試合形式の活動を多く設け、その中で、練習したことを実際に活かす場面や、生徒たちに考えさせる場を多くもたせる。

平成24年度 第2回授業改善推進プラン

荒川区立第四中学校（教科 技術）

本教科の授業改善の視点

	本校生徒の実態	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	二学期の成果と課題	年度末に向けての改善策
1年	入学当初は、落ち着かず授業に集中できないようすであったが、初歩的なルールを1つ1つ丁寧に説明することで、比較的早く落ち着いた。	2, 3年生に比べ、その時間の目標（めあて）や作業の予定を把握できていない生徒が多いことが気になった。	作業の目標や作業の行程などをさらに明確にする。具体的には、目標の板書の内容を細かく示し、丁寧に説明する。	授業のペースに慣れ、落ち着いて作業ができるようになった。 目標についての質問も「大変そう思う」と答えた生徒が、24%上昇した。	3学期は、情報の授業に切り替わる事をきっかけに、学年全体の雰囲気合わせた授業展開やコミュニケーションの方法をより一層考え、集団としてさらに伸ばすための仕上げをしっかりとこなしていきたい。
2年	上級生になり、1年次よりさらに落ち着いて授業（作業）に集中できている。しかしながら、不器用な生徒も多く作業進度に開きができてしまうことが課題である。	作業が多く、発言の機会が少ないことが明確になった。言語活動を取り入れる意味でも改善に努めたい。	作業の節目で発言や質問をできるような機会をあたえる工夫を行ってきたい。	質問できる機会をあたえる工夫を行ったが、「質問しやすい」の項目で「大変そう思う」と答えた生徒が、4%の上昇にとどまった。 質問も増し良い反応を感じていたが、クラスによって、差がある事も同時に感じていた。	3学期は、情報の授業に切り替わる事をきっかけに、各クラスの雰囲気合わせた授業展開やコミュニケーションの方法をより一層考えていきたい。
3年	良い作品を作ろうという意欲的な生徒が多く、常に集中し作業に取り組んでいる。	作業内容や予定、目標を把握できている。反面、質問等が少なく、言語活動を取り入れる意味でも、改善に努めたい。	質問しやすい雰囲気作りやこまめに巡回し、細かいアドバイスや質問を促す工夫を行い、さらに良い作品及び満足できる作品に仕上がるよう改善に努める。	細かいアドバイスや質問を促す工夫を行い、質問しやすい雰囲気作りを行った結果、「質問しやすい」の項目で「大変そう思う」と答えた生徒が、14%上がった。	3学期の授業予定は、1時間しかないので、最後まで、「より良い作品作り」を意識させ、作品展示で、下級生が目標とするような作品を完成させたい。